

大会名 Competition	秋田国体記念 第20回能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-107	Year Month Day Time 2007 年 5 月 4 日 15 : 30
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B										
能代工高	<table border="1"> <tr><td>24 1st</td><td>17</td></tr> <tr><td>24 2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>28 3rd</td><td>18</td></tr> <tr><td>24 4th</td><td>13</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	24 1st	17	24 2nd	16	28 3rd	18	24 4th	13	OT		延岡学園高
24 1st	17											
24 2nd	16											
28 3rd	18											
24 4th	13											
OT												
100 ○		64 ●										

主審:Referee
藤垣 庸二 (宮城)
副審:Umpire
北沢 岳夫 (宮城)
テーブル・オフィシャルズ:Table officials
能代 (男子)

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	渡部 敬祐	CAP	23	5	3	2	0	4	／	福留 貴明	CAP	0	0	0	0	1
5	×	満原 優樹		4	0	2	0	1	5	×	シダット ジャーラ		18	0	9	0	1
6	×	高橋 健太郎		14	0	5	4	0	6	×	和田 力也		6	1	1	1	1
7	×	長谷川 技		31	2	10	5	3	7	×	永吉 佑也		17	0	6	5	1
8	×	高橋 陽		4	1	0	1	2	8	×	前田 陽介		6	2	0	0	3
9	／	宮川 光		9	0	4	1	1	9	／	重永 和樹		4	1	0	1	0
10	／	館山 健太		9	1	2	2	3	10	×	内村 祥也		7	2	0	1	1
11	／	石川 朝		0	0	0	0	0	11		大坪 将太		-	-	-	-	-
12	／	熊谷 健		0	0	0	0	0	12		川口 裕也		-	-	-	-	-
13	／	荒生 純平		2	0	1	0	1	13	／	湯地 寛文		0	0	0	0	0
14	／	小川 昌志		0	0	0	0	0	14	／	中村 友哉		0	0	0	0	1
15	／	武藤 修平		2	0	1	0	1	15	／	川元 崇史		0	0	0	0	3
16	／	金田 健大		0	0	0	0	1	16	／	横瀬 孝樹		5	1	1	0	2
17	／	飯田 啓人		0	0	0	0	0	17	／	山口 渉		-	-	-	-	-
18	／	佐藤 光		2	0	1	0	0	18	／	川畑 卓也		1	0	0	1	0
コーチ		加藤 三彦							コーチ		北郷 純一郎						
Aコーチ		佐々木 信吾							Aコーチ		長倉 慶一郎						
合計				100	9	29	15	13	合計				64	7	17	9	14

※×:スターター 〃:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P率* イントシュート 2P:2P率* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1 Q、両者マンツーマンディフェンスでスタートする。能代工高は、硬さのみられる延岡を尻目に #4 渡部の 3 P や #7 長谷川の 4 本ものドライブで着々と得点を重ねる。延岡は #6 和田のドライブからの合わせや、#5 ジャーラの高さを生かしたゴール下で得点するもなかなかリズムを掴めない。残り 2 分、延岡 #7 永吉が 2 本のリバウンドシュートを沈め、24-17 能代工高リードで終了。

2 Q、能代工高はディフェンスをゾーンに変える。延岡 #10 内村の 3 P でスタートするも、能代工高 #7 長谷川の連続ドライブで応戦する。延岡は、#5 #7 にボールを集め、インサイドを中心に攻めようとするが、外角とのコンビネーションが合わず、インサイドのみの得点にとどまる。能代工高は、残り 3 分 27 秒から #4 渡部の速攻、2 本の 3 P を含む 12 得点し、48-33 と差を広げ前半を終了した。

3 Q、反撃に転じたい延岡はマンツーマンとゾーンディフェンスを使い分け、リズムを掴もうとするが、能代工高 #7 長谷川の 3 P、#9 宮川の巧みなゴールにかわされる。その後、延岡の 3 P が単発で決まるが、残り 3 分を過ぎたところで能代工高 #7 長谷川がこの日 8 本目のドライブを決めると、ここから一気に 8 連続得点し、点差を 25 点に広げ勝負を決めた。

4 Q、延岡はシュートイン後の 2-2-1 のゾーンプレスで食い下がろうとするが、逆に能代工高ディフェンスの前に 3 連続ターンオーバーを喫し、10 連続得点を許す。延岡は外角のメンバーを入れ替えるもリズムをまったく掴めない。能代工高は残り 4 分にメンバーを総入れ替えするも、攻撃的な守りの手を緩めない。控えメンバーのはつらつとしたプレスディフェンスから得点を重ね、全員出場の能代工高が 100-64 で快勝した。

相手の高身長選手を外におびき出し、ドライブから効果的に得点を重ねたり、メンバー全員が飛び込みリバウンドに積極的に参加したりと能代工高の思い切りのよさが光ったゲームであった。一方の延岡には内角と外角の息の合ったプレーを期待したい。